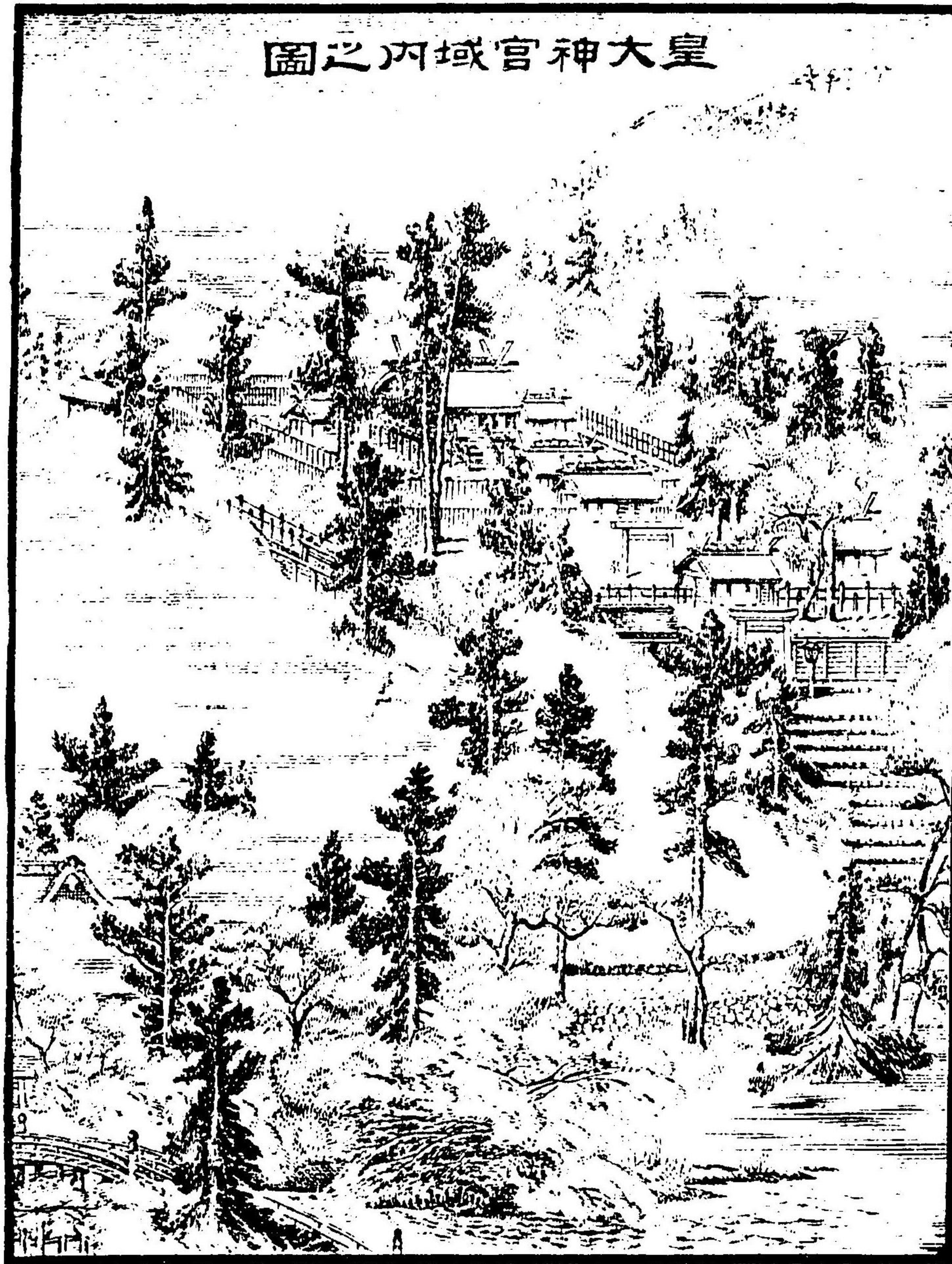


165



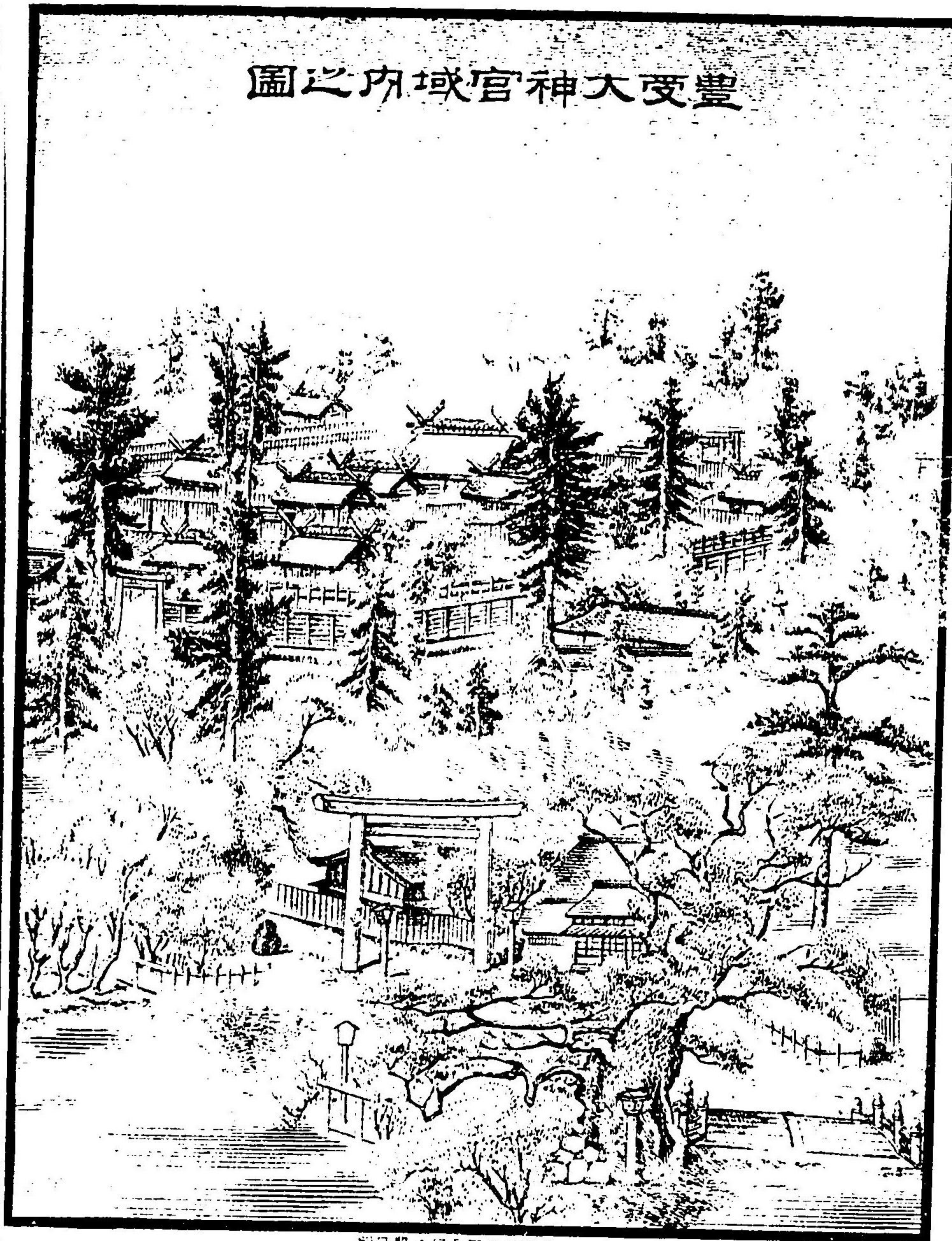
大坂北門外野田法樂館印行

皇大神宮内之圖



皇大神宮内之圖

豐受大神宮内之圖



豐受大神宮内之圖

自序

有乘客不知所乘之船名、且不問於其船之構造如何而又由於何之方法有不知進航者則、人是云何乎不云狂則云愚耳未聞不知船名而乘船不識別氣船與帆船而乘船者、雖然世間往々類之事實不爲少矣余深有感于此以草此

第一篇 夫生於海內無比之神國、際於日新文明之今日、我政體如何而操其

二 往路、政體如何而運轉於其機關、祭祀如何而混合與我政治也不知有于年

三 難奇之祭祀也

四 豈其當日往々有聞於其名稱並緣由者矣是全余之所謂得

五 不非狂愚之乘客乎有西人之言、不問船舶而問船價又曰不問船之堅脆而問

六 其船長有言哉言也今也我日本丸之所航日新文明之爲政海、日本丸之本体、

是爲日本特有之政體、如何吾人日本人民而使之運轉不知於機關方法而可乎欲窮之者又可不窮我國祭祀之由所起祭祀卽爲政事乎聊陳所感以爲序

明治二十四年十二月下旬

編者識

緒言

本書ハ泰西式日讀本ノ例ニ倣ヒ高等小學校生ノ學力ヲ標準トシ大祭祝日ノ起原及ビ緣由ヲ解釋シタルモノニシテ務メテ簡明平易ヲ旨トシ字句文章ハ固ヨリ解釋ニ至ルマデ可及的高尙ニ失セズ卑近ニ失セザルノ目的ニ向ツテ編述シタルモノナリ繙者幸ニシテ編者ノ不文ヲ尤メズ只其微衷ヲ推シ以テ或ハ祝日ノ演說ニ代ヘテ朗讀シ或ハ採テ以テ脩身ノ話柄トモ爲シ或ハ唱歌教授ノ一助トモナシ以テ我が皇國特有ナル國家教育ノ基礎トモ爲シ以テ忠君愛國ノ志氣ヲ振起スルノ一助トモナスアラハ編者ノ面目之レニ過ギザルナリ

明治二十四年十二月下旬

編者 謹識

皇國式日正解 附祝祭日唱歌

一月一日

柴垣 馥 謹撰

拜

四方拜ノ御式ハ皇極天皇ノ御宇ニ始マリ宇多

御再興アラセ給ヒシヨリ延喜延長以來ノ恒

天皇御龍體御親シク九重ノ南庭ニ出御アラ

セ給ヒ御祭祀相成リタル御式ニシテ皇祖皇太神以下ノ諸神

ヲ始メ奉リ遠キ太古ノ時代ニ於テ我皇祖宗祖ヲ輔佐シ奉リ

テ勳功著ルシキ諸神ヲ合セ祭ラセ給ヒ年災ヲ攘ヒ寶祚ヲ祝

◎四方拜



シ天下泰平萬民安寧ヲ祈ラセ給フ御式ナリ決シテ泰西人ノ
如ク假想的ノ造物主ヲ祭リ支那人ノ如ク天地山川及ビ屬星
ヲ拜スルガ如キ比ニ非ラザルナリ天地開闢ノ始メヨリ君臣
ノ分限懸隔相定マルノ至貴至尊ニマシマス天神以下ノ御皇
靈ヲ祭祀シ奉ルナリ是レ我國體ノ世界萬國ニ其比ヲ見ザル
所ニシテ宇内ニ冠タル所以ナリ嗚呼吾人臣民タルモノハ如
何デカ其歷代臣民タルノ身分ヲ顧ミ我祖先以來皇恩ニ浴ス
ルノ恭キヲ感佩シ齋戒沐浴謹デ本日ヲ祝シ寶祚無窮皇室萬
歳ヲ祈リ奉ラデ叶フベキヤ吾人ノ職トシテ守ルベキハ何ゾ
是レ忠君愛國ニアルノミ

一月三日

元始祭

謹ンデ按スルニ元始祭ハ四方拜ノ如ク遠ク古代ヨリノ恒
例トシテ舉行アラセラレシ御式ニハオハサ子ドモ我國ハ神
國ニシテ祭祀即チ政治ナレバ斯ク政治始メノ前日猶特ニ御
神祭ヲ舉ゲサセ給フト爲リ明治ノ始メヨリ例年此御式ヲ
舉行セラレ賢所皇靈神殿ヲ祭ラセ給フトハ成リタルナリ
熟ラ古史ヲ按スルニ八咫ノ御鏡ハ天祖ノ御手自ラ視此鏡
猶視吾トノ御神勅ヲ下セラレ親ク天孫ニ授ケ給ヒシ御神器

◎元始祭

ニシテ昔時ハ歷朝ノ天皇陛下ガ御寢殿間近ク祀ラセ給ヒタルヲ崇神天皇襲瀆ノ恐レヲランコトヲ慮リ給ヒ別ニ鏡劍ヲ撰造アラセラレ眞ノ鏡劍ハ特ニ祭所ヲ設テ移シ給ヒシニ由リ宮中ノ御鏡御劍ハ共ニ天祖ノ親シク授ケ給ヒシ御寶ニハオハサ子ドモ我至尊ナル 天皇陛下ガ天祖大神宮ヲ御尊崇ノ餘リ斯ク大祭祝日ニハ必ズ賢所御親祭アラセラル、ナリ誠ニ申スモ畏キコトナカラ我 至尊ノ天祖ヲ尊ミ崇メ給フコトスクノ如シ苟モ皇國ノ臣民タルモノ如何デカ忠良至誠ノ意ヲ表シ以テ微衷ヲ表セザルヲ得ンヤ

一月三十日

孝明天皇祭

謹デ按スルニ本日ハ畏クモ是レ我 今上天皇陛下ノ御父帝ニマシマス 孝明天皇陛下御崩御ノ當日ニシテ豫メ勅使ヲ山城ノ國東山ナル御陵ニ立テサセ給ヒ宮中ニ於テモ亦 天皇陛下下親ク御祭祀アラセラル、祭日ナリ熟ラ史乘ヲ拜閱スルニ 孝明天皇陛下ハ仁孝天皇第四ノ皇子ニオハシマシ御年十六歳ニシテ寶祚ニ昇ラセ給ヒ聖算三十六歳ニシテ御崩御アラセ給ヒタル御方ナルガ御在位ノ間ハ時是レ維新前トテ外ハ海外諸國ヨリ通商互市ノ道ヲ開カント迫リ内ハ上下

論難辨擊以テ外交ノ如何ヲ喋々シ海内恰モ鼎ノ沸ガ如ク人心洶々殺氣地ヲ卷キ陰雲天ニ漫ルノ折柄一方ナラズ御宸襟ヲ勞サセ給ヒ民安カレトノ大御心ヨリ屢々時ノ將軍ニ勅ヲ下サセ給ヒ我今上天皇陛下ノ御聖代ニ至リテ大成セシ明治中興ノ源ヲ開カセ給ヒシ御方ニオハスナリ我今上天皇陛下ハ至孝ニシテ御父帝ヲ慕ハセ給フノ餘リ父帝ノ御盛徳ヲタゞへ給ヒ斯クハ御祭祀遊ス御事ニゾアルナリ我皇國人民タルモノ其勤ムベキ義務蹈ムベキノ道ハ何ゾ忠君愛國ニ外ナラズ忠君愛國實ニ其起テ孝ニ發ス夫レ孝ハ百行ノ基ナリト宜ナルカナ言ヤ

二月十一日

紀元節

謹ンデ按スルニ 治亂盛衰ハ社會ノ常体トテ我國上古以來全ク僭亂ノ臣ナキニ非ズト雖へ是開闢以來君臣ノ分定マリ皇室ノ至貴至嚴ナル未ダ嘗テ秋毫ノ汚瀆アラズ世ヲ傳フルヲ百二拾有餘代年ヲ經ルヲ二千五百五十有一年はレ世界各國ニ其例シアラザル所ニシテ獨リ我が皇國ノ獨得ナル所即ナ至貴至重ナル所ナリ思フニ本日ノ紀元節ハ我が初代ノ天皇 神武天皇陛下御即位ノ當日ニマシマセハ猶彼ノ泰西諸

國建國ノ當日ヲ祝フノ式アルト同シク皇統一系萬世無窮ヲ祝ハセラル、ノ御式日ニシテ苟クモ我皇國ノ臣民タルモノハ老幼男女ヲ問ハズ身分ノ如何ヲ論ゼズ國家長久聖壽萬歲ヲ祈ルベキノ祝日ニツアルナリ

三月廿一日

春季皇靈祭

謹ンデ按スルニ 我皇國ノ皇位ハ屢々外國ノ史上ニ散見スルガ如ク強者弱ヲ挫キテ王位ヲ占メ臣下地ヲ異ニシテ帝位ヲ占ムルノ類ニアラス固ヨリ尊卑ノ分定リ君臣ノ階級遠ク

相隔絶シ皇統聯綿御一系ニマシマセバ即チ上代天皇ハ系ニ遠近ノ別コソアレ親シク御父君モ御同前ノユトニシアレバ上古八年ノ終リ毎ニ荷前ノ使トテ十陵八墓ニ幣帛ヲ獻ゼラレ其後モ猶五拾年或ハ百年ヲ限リ神武天皇以下歴代天皇ノ御祭祀ヲ營マル、例シニ做ヒ明治四年二月廿八日ヨリ殊ニ四季ノ内ニモ春秋二季ヲ以テ歴代天皇ノ御神靈ヲ祀ラセ給フ御事トハ成リタルナリ

四月三日

神武天皇祭

謹ンデ按スルニ 本日ハ是レ時太古ニ際シ武斷是レ事トシ
以テ草昧ヲ開キ以テ蒼生ヲ撫シ威ヲ四圍ニ輝シ黽勉拮据以
テ萬世無疆ノ天業ヲ恢興セラレタル 勇烈無雙ニ渡ラセ給フ
初代神武天皇御崩御ノ當日ナレバ天ツ日嗣ノ御後裔ニマシ
マス我が 今上天皇陛下ガ其御盛徳ヲ思シ召サレ御追慕ノ
餘リ御祭典マシマスコトニシアレバ我神國古代人民ノ末裔タ
ル吾人々民ニ於テモ誠心正意以テ本日ノ御祭典ヲナサデ叶
フベキヤ又如何デカ深ク我國休ヲ顧ミ忠君愛國ノ精神ヲ磨
キ鍛ハデ叶フベキヤ真心込メテ我 天皇陛下ノ御祖先ヲ祀
リ奉リ武運長久國家安泰ヲ祝シ皇室萬歳ヲ祈リ奉ルコソ我

國民ノ採ルベキノ方針守ルベキノ義務即チ節操ナラメ

九月廿三日

秋季皇靈祭

謹ア案スルニ春分秋分ハ晝夜平分ノ時トテ古來春夏秋冬ナ
ル四時ヲ畧シテ往々春秋ト吟ミスル程ニテ尤モ平等ヲ保ツ
ノ氣候ニシアレバ從來間々舉行セラレシ歴代天皇ノ五十年
祭或ハ百年祭等ニ代エテ春秋二季ヲ期シ高祖以下ノ御神靈
ヲ平等ニ祀ラセ給フコソ春秋ノ皇靈祭ニシテ其春季ナルヲ
春季皇靈祭ト稱ヘ奉リ秋季ナルヲ秋季皇靈祭ト稱ヘ奉ルヲ

リ嗚呼吾人臣民ハ上代臣民ノ末裔ニ非ラズヤ而シテ上代臣民タル吾人ノ祖先ハ又上代天皇陛下ノ御恩澤ニ浴セシモノニアラズヤ是ヲ思ヒ彼ヲ考フレハ正心誠意以テ皇室ニ盡シ奉ルノ忠ハ吾人祖先ノ誠意ナルノミ即チ吾人ノ本分ナルノミ其忠トハ何ゾ平時ハ即チ皇室ヲ敬シ以テ國益ヲ計リ戰時ハ即チ義ニ死シ國難ニ代ルノミ

十月十七日

神嘗祭

謹デ按スルニ 本日ハ豫メ期シテ勅使ヲ伊勢太廟ニ差シ遣

ハセラレ本年收穫シタル新穀ノ御酒神饌ヲ供シテ御祭典アラセラル、最モ尊キ御祭日ニシテ雲井高キ御宮中ニ於テモ我 今上天皇陛下御龍體御親シク九重ノ南庭ニ出御アラセラレ遙ニ西方伊勢ノ空ニ向フテ御遙拜ノ御式ヲ舉行セラレ皇太后陛下皇后陛下皇太子殿下ニ於テモ各御便殿ニ於テ御遙拜アラセラレ右御式畢リテ又賢所御親祭アラセ給フ式日ニシテ我國大祭日中ニモ尤モ重キヲ置カセ給フ祭日ナリ熟ラ古史ヲ拜閱スルニ本日ハ我皇祖 天照皇大神ヲ伊勢ニ遷シ奉リシ御鎮座ノ御當日ナレバ昔時ハ季秋神嘗祭又ハ九月神嘗祭トモ稱へ毎年九月十七日ヲ以テ此御祭典ヲ行ハセラ

レタリシガ元徳年間以來世ノ衰亂ニ由リテ久シク御祭典アラザリシヲ三百餘年ニ及ビタルモ後光明天皇正保年間御再興アラセラレ爾來今日ニ至ルマデ代々ノ天皇陛下ガ殊ニ重ナ置セ給ヒテ御祭祀アラセラル、御事トハナリタルナリ

十一月三日

天長節

謹デ按スルニ本日ノ御式ハ古代寶龜天應ノ頃ヨリ代々御執行アラセラレタル御典禮ナリシガ其後久シク中絶シタリシヲ明治ノ初年再ビ御復興アラセラレタル大賀節ニシテ即

ナ畏クモ我が文武勅聖至貴至尊ニマシマス今上天皇陛下ノ御降誕アラセラレシ吉日ナリ苟モ皇國ノ民人タルモノ齋戒沐浴以テ天壤無究ノ御皇運ヲ祝シ陛下ノ萬々歳ヲ祝シ奉ルヘキノ良辰ナリ此日陛下ニハ御宮中ニ於テ御祝典ノ式ヲ擧ゲサセ給ヒ式畢テ御龍休御親ク觀兵式ニ臨御遊バサレ治ニ居テ亂ヲ忘レズ只管我が蒼生ヲ愛シ給フノ至慈至仁ナル祝日猶不虞ノ警戒ヲ示サル、ノ御宸襟ニオハスナリ嗚呼我皇國ノ臣民タルモノ誰レカ此大御心ヲ感佩シ忠君愛國ノ志氣ヲ振起セザルモノアラシヤ又誰レカ寶祚聖算長ヘニ長キヲ祈ラザルモノアラシヤ

十一月廿三日

新嘗祭

謹ンテ按スルニ 本日ハ上世間々舉行アラセラレシ大嘗祭
 ノ例シニ倣ヒ今年熟シタル新穀ヲ我ガ 今上天皇陛下親シ
 ク 皇祖皇大神宮ヲ始メ奉リ及ビ以下ノ諸神ニモ供セラレ
 又自ラモ嘗メサセ給フ祭日ニシテ我國御祭典ノ中ニモ尤モ
 重キヲ置カセ給フ大典ナリ想フニ斯ク新穀ヲ供シ天祖ヲ祭
 ラセ給フ御主意ハ時草味ノ折柄我天祖大神宮ノ親シク此ノ
 瑞穂ノ國ヲ治シ召シ草味ヲ開キ萬民ヲ撫シ以テ嘉穀ニ生ナ

繋ギ以テ織布ニ寒暑ヲ凌グノ御教示ヲ垂レサセ給ヒ永代生
 活ノ起本ヲ授ケラレタルノ御鴻績ヲ慕ハセラレ猶モ嘉穀豐
 穰蒼生萬福ヲ祈ラセ玉フ御心慮ニマシマスナリ我皇國ノ人
 民タルモノ如何テカ此御皇恩ノ忝キヲ謝シ國家長久皇室萬
 歳ヲ祝シ奉ラデ叶フベキヤ是レヲ思ヒ彼レヲ思ヘバ知ラス
 感涙袖ヲ濡シ鼓腹擊壤手ノ舞ヒ足ノ踏ム所ヲ知ラザルモ理
 リトコソ思フナリ

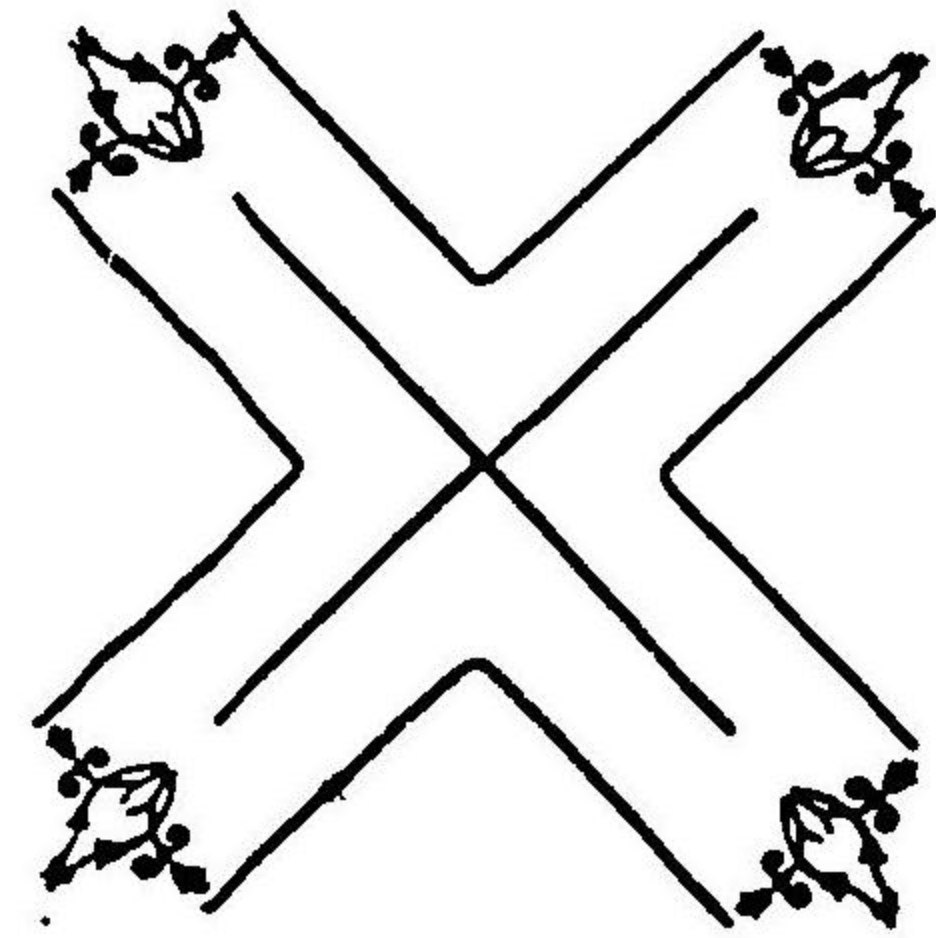
皇國式日正解終

祝祭日唱歌

一月一日

四方拜

天^{てん}よ五^ご色^{しき}の雲^{くも}みちる。地^ちには海^{うみ}の
 めく霞^{あせ}たち。たみぐさそよぐ春^{はる}風^{かぜ}
 に。御^み稜^{りやう}威^いのけはいけだかくも。國^{くに}
 の御^み旗^{はた}はひらくと。はるめくけ
 ふえかしこくも。四^し方^{ほう}拜^{はい}てふ我^{われ}國^{くに}
 の。先^まきをためしのまつりごと



一月三日

元始祭

水も若やぎ木の芽だち四方の山
 邊はおのづからみへあらたまる
 人ごゝるはるの初の元始祭動か
 ぬ御代のためしきて萬代かけて
 君が代をまつるけふこそ樂しけ
 れ

ミーツモ ワカヤギキノメダ チ

ヨーモノ ヤマベハチノヅカー ラ

三

タミグサ ソーヨグ ハルカゼ ニ

ミイツノ ケーハイ ケダカク モ

クーニノ ミハタバヒラヒラ ト

ハルメク ケアーハカシコク モ

シーホウハイテフ ワガクニノ

サーキチタメシノ マツリゴト

二

一月三十日

孝明天皇祭

た	た	父 ^{ちち}	末 ^{すえ}	限 ^{かぎ}	天 ^{あま}
の	ま	君 ^{きみ}	な	り	な
し	祭 ^{まつり}	を	び	な	び
け	り	と	く	く	く
れ	。	。	。	。	。
	ま	ま	い	天 ^{あま}	地 ^ち
	つ	つ	ま	つ	久
	る	ら	の	日 ^ひ	き
	け	せ	み	嗣 ^{ついで}	と
	ふ	給 ^{たま}	か	の	く
	こ	ふ	の	。	。
	そ	。	。	。	。

テ—ンナガクチヒサシク カーギリ

ナークアマツヒツギー—スエナガ

五

ミヘアラターマルヒトゴコロ

ハールノハヂメノゲンシサイ

ウゴカヌミ—ヨノタメシト—テ

ヨロヅヨカーケテキミガヨヲ

マーツルケフユソタノシケレ

四



テーンニカガヤクヒノマルト



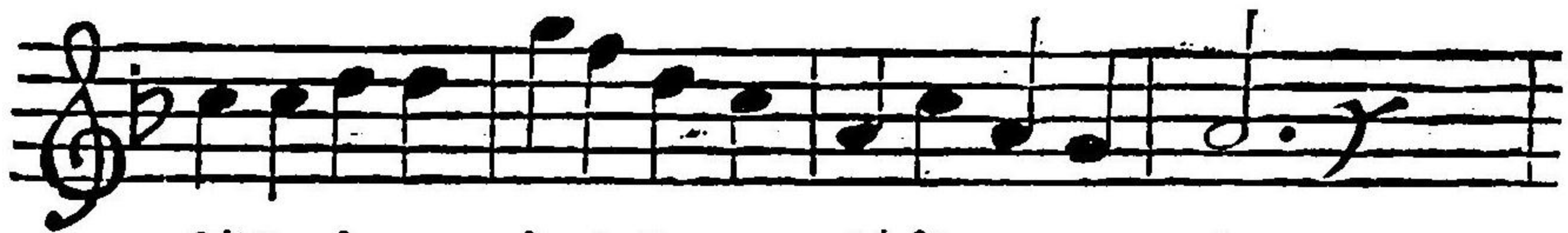
ヒーカリカガヤクヒノモトノ



クーンノミハタハケタカクモ



ミイヅノカーゼニヒルガヘリ



ゼカイニタメシーナキモノト



ホーユリヨロコブクニタミノ

七



ク イマノミカドー マチ、ギミー



チ マツラセタマヲー タママツ



リ マーアツケフコツタフシケレ

紀元節

天に輝く日の丸と光り
 やく日の本の國の御旗はけ
 だくも御稜威の風に翻り
 世界に例しなきものと誇り
 よほこぶ國民の祝ふけふこ
 そ日の本の千代をことぶく

紀元節

二月十一日

六

ハナギ サクラヲ コキマゼ テ

アサヒ カカヤク ヒノモト ノ

ハルケキ ケフーノ カミマツーリ

イーハフ ケフコソ メデタケ レ

イーハフ ケフコソ ヒノモト ノ

チーヨチ コトブク キゲンセ ツ

祝イハヒ は 朝あさ 柳かやなぎ
 ふけるふこそめでたけれ。 日ひ かよやく日ひの本もとの。 さらさらどきませして。

春季皇靈祭

三月廿一日

四月三日

神武天皇祭

めぐみの露にお
ひたちしあをひ
とごきの諸とも
に。とをつみや
の。めらみをま
つるけふこそ
しけれ



メグミヲ ツーユニ オヒタチ シ



アヲヒト グーサノ モロトモ ニ



トヲツ ミヲヤノ スメラミヲ



マーツル ケフコソ タノシケレ

九月廿三日

秋季皇霊祭

昇る朝日に
やきて秋乃に
きも一しほに世
界の園とはや
る。我が日の本
の。秋まつり祝
けふこそ
れ



ノボールー アサヒニ カガーヤ キテ ア



キーノー ニシキモ ヒトシチーニ セ
ワ



カーイノソノートーハヤーサルル イ
ガーヒノモトーノーアキーマツリ



ハフー ケフー コソターノシケレ

十一

十

十月十七日

神嘗祭

四方の海原浪た
 ず。おさまる御
 代の瑞穂なる。今
 年のりしあら
 よねと。神にさ
 げてまはるてふ。
 けふの日こそめ
 てたき

ヨーモノ ウナバラ ナミタターズ

オザマル ミーヨノ ミツホナル

コトジミノリシアラヨチー
カ ミニササゲテマツルテフ

ゲアニソ ヒーコソ マデタケレ

十一月三日

天長節

都やひなのわかちなく。
 やしまのはての浦も。
 戸毎またはる日の丸の。
 御旗に染し御志るしは。
 天津日嗣の幾千代に千
 代に八千代に萬代よ天
 地とともにながめれと。
 限りなの世を祝ふなり。

ミヤコヤヒナノ ワカチナク

ヤシマノ ハーテノ ウラウラモ

トゴトニ タツル ヒノマルノ

ミハタニ ソメシ ミシルシハ

十一月廿三日

新嘗祭

り	の	の	も。	の	ふ	し	代*
姿 <small>すがた</small>	動 <small>うご</small>	や	み	新 <small>あらた</small>	く	の	帝 <small>みかど</small>
も	き	ま	の	嘗 <small>あじ</small>	も。	祭 <small>まつり</small>	の
み	な	と	り	の	祭 <small>まつり</small>	ら	し
へ	き	し	幾 <small>いく</small>	み	せ	玉 <small>たま</small>	た
ぬ	御 <small>みかど</small>	ま	千 <small>ち</small>	づ	玉 <small>たま</small>		
な	代*	ね	代*	ほ			

ヨヨフ ミカドノ ミタシグ モ

マツラセ タマフ ニヒナメ ヲ

ミヅホノ ミノリ イクチヨ モ

十五

アーマツ ヒツギノ イクチヨ ニ

テヨニ ヤチヨニ ヨロヅヨ ニ

テンチト トーモニ ナガカレト

カーギリナノ ヨヲ イハフナリ

東あづまのきわみ西にしのはて。南みなみ
 や北きたの國くに々々も戸と毎とに祝いわ
 ふけふの日は問とえても
 忘わするき大君おほきみのいてませ
 し日ひを祝いわふなり。めぐみ
 あまねき君きみが代よを千代ちよ
 に八千代やちよにながかれと。
 万代よろづよかけて祝いわふなり

十四



祝祭日唱歌

柴垣 馥作歌

河野 普學作曲

新刊書籍廣告

●大阪府尋常小學校教頭久保田貞則先生校閱
●森本 園二君 編纂

○新編 小學 脩身事實全書

洋綴美裝 正價金六拾錢
全一冊 郵稅金拾四錢

近來修身の書其數夥とせし然れ共之を取て實地に用ふるに至りては或は繁雜にして搜索に便ならず或は短簡敷衍に乏しきを以當に隔靴搔痒の歎をわらしむ故に本書は其過不及に憾なからんを慮り先づ卷首に添くも徳育の標準に關せしめ勸語を謹載し次に簡短にして正確趣味ある事實を千三百余を撰ひ久保田先生に校閱を請ひ且搜索に便ならしめん爲め孝行慈愛誠實勤勉等の節目廿壹篇に今ちたれば搜索の便なるは素より其實話格言の多きは未だ嘗て見ざる處にして實に修身書の大典と言ふべし請ふ當局の諸君一本を坐右に備へ玉わんを

○三重縣尋常師範學校音樂教師恒川線之助君謹選
○帝國大祭式日唱歌

全一冊 正價七錢
郵稅貳錢

本書ハ帝國大祭式日ヲ基本トシテ小學生徒ニ最も適切ナル樂譜ヲ撰述セラレシモノナレバ教育家諸君御購求アラソナリ

○高等 簿記學教科用書

全一冊 正價貳拾錢
郵稅四錢

今ヤ簿記學ノ旺盛ナル地ノ都郡ニ輪ナク業ノ如何ナ問ハズ農工商ニ之ヲ用ユル者日ニ月ニ増加シ隨テ此學ニ就テ著書汗牛充棟車載ニ堪ヘサルノ多キニ至ルト雖モ或ハ高尚ニ失シ或ハ卑近ニ失シ未ダ此道ノ初學者及小學生徒ノ教科書ニ適切ナルモノヲ見ズ先生之レヲ遺憾トシ多年ノ經驗ヲ實地ノ應用ヲ以テ本書ヲ草セラレタレバ初學者習學ノ利ヲ計シ盡トナリ簿記學階梯ノ價值アラソ

發行書林

大阪心齋橋通備後町角 吉岡平助本店
神戸市元町通五丁目二十番邸 支店

明治廿五年一月十五日印刷
全 廿五年一月十六日出版

定價金拾貳錢

版權所有

大阪西區西長堀南通四丁目百番邸

著者 柴垣 馥

發行兼印刷者

大阪市東區北濱四丁目五十六番邸

片野 仁三郎

大賣捌所

大阪心齋橋通備後町西へ入

盛文 館

大阪心齋橋通備後町角

吉岡 平助

全備後町四丁目

梅原 龜七

全北久太郎町四丁目

柳原 喜兵衛

全心齋橋南豐丁目

松村 九兵衛

神戸市元町通五丁目廿三番邸

吉岡平助支店

全

全

全

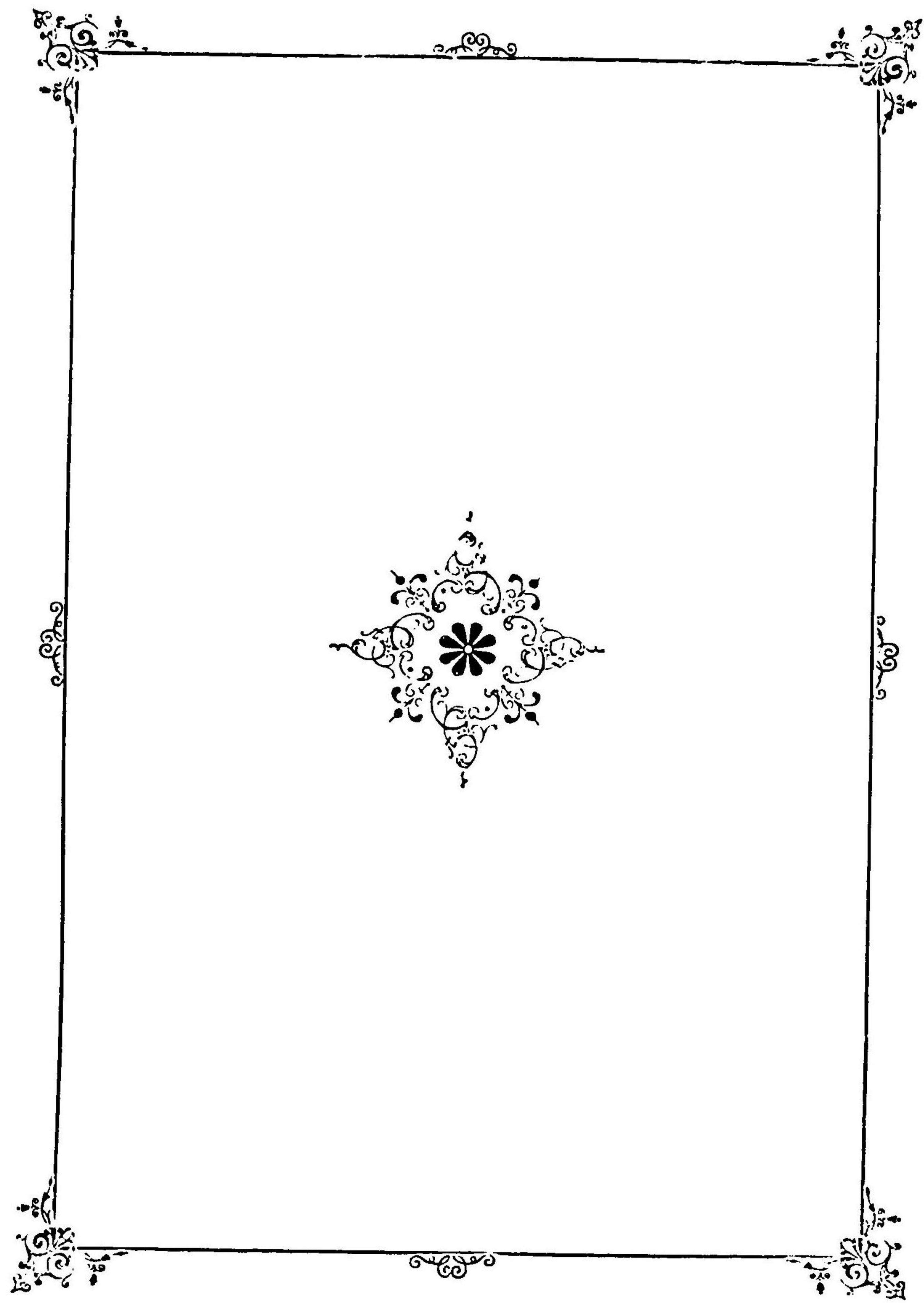
全

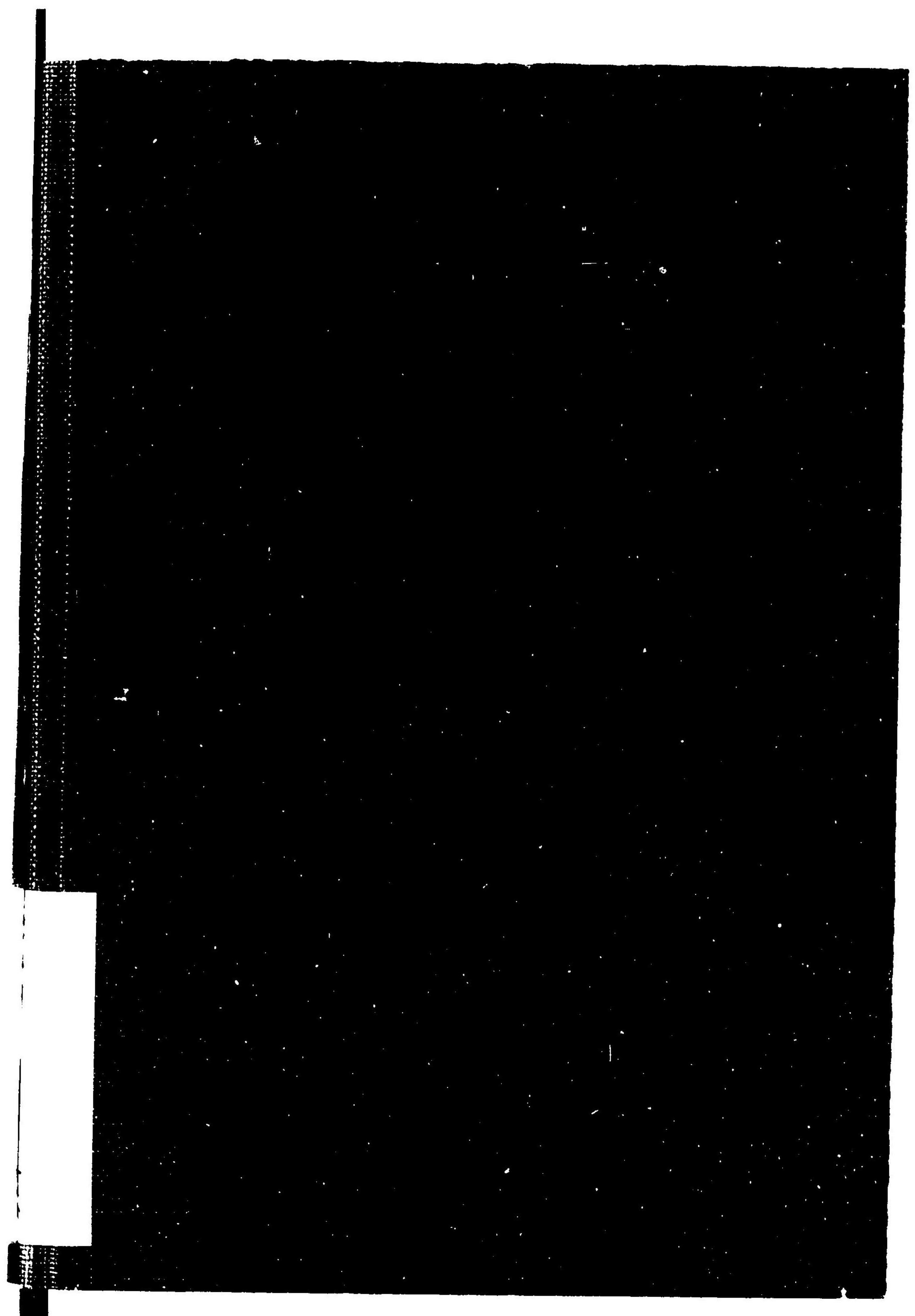
全

大

發

著





特45

565

皇國式日正解

国立国会図書館

013983-000-4

特45-565

皇国式日正解 付, 祝祭日唄歌

柴垣 馥/著

M25

ABB-0232

